

現代版「いい子を語る」

浜口順子
宮里曉美
伊集院理子
佐藤寛子
伊藤綾子

昔の座談会を読んで

浜口 今から八十年以上前の『幼児の教育』に、倉橋惣三と幼稚園の先生たちの「いゝ子を語る」という座談会の様子が掲載されています（この後の13〜17ページに一部転載）。今日は、現代版「いい子を語る」座談会を私たちがやってみようと思います。ちょっとおこがましいようですが。

伊藤 「思ひやり」っていう言葉が昔の座談会に出てきますが、「いい子」というと、イメ

ージとしてはやっぱり優しいとか、周りの人にも思いやりがある、いろいろな声をかけていくとか、そういうところがあるのかなあ。どうですか？

佐藤 私はこれを読んだとき、保育が終わった後などに私たちが話している感じとそんなに違わないような気がしました。目に見える姿ではなくて、もうちょっと先まで考えて、「この子はこれからどうやって育っていくだろう？」「どうかかわっていいこう？」と考えつつ子どもを語ろうとするところが似ているなあ。

伊集院 ちょうど神原先生が「いゝ子って主観になりますね。少し乱暴だと見る人もありますが、それは元気の余る所と私は思ひます」とおっしゃっている。やっぱりいろいろな見方をしてその子の良さを見取ろうとしている感じが伝わってきて、そういう意味では、今と近いものがあるなあ。

浜口順子（お茶の水女子大学教授）
伊集院理子（お茶の水女子大学附属幼稚園副園長）
伊藤綾子（お茶の水女子大学附属幼稚園教諭）

宮里曉美（文京区立お茶の水女子大学こども園園長）
佐藤寛子（お茶の水女子大学附属幼稚園教諭）

宮里 倉橋先生が先生たちに「さういふい、子はみんなからどうです」と尋ねていて、徳久先生が「好かれて居ります」と答える。それに対して倉橋先生が「同年齢の子の中で認識尊敬してゆく力はあるものです」と。

「い、子」を語っているようでいて、その子を認めている周りの子の良さを語る方向へ持っていくところがすごいなあと思う。関係の良さや幅広さを語っている。一面的にならない、深い語りになっているのね。

「い、子」の語り方

浜口 「い、子を語る」なんてタイトル、現代の雑誌だと絶対ないと思います。「気になる子について語る」とかはあるかもしれないけれど。語りにくいテーマではありませんか。

伊集院 誰ちゃん、っていうのではなくて、私たちは、こういう姿があつてそういうところがいいよねってという語り方。例えば、お片

づけのときに、先生に言われなくても黙々と一人でもやっているとか、自分から自然にそういうことをいとわずにやっている子を見ると、この子はいいい子だなと思ったりする。すごく一生懸命遊んで、自分のことも一生懸命だけど、はっとお友達のことを気がついて声をかけてあげるとか、そんな姿から、この子にはこういう面があつていい子だなんて思う感じかな。どうですか。

佐藤 身体が健康な人の話題が出てきましたよね。健やかであることって、それがいいとか悪いとかではなく、安心する。ああこの人、大丈夫だなんて思えるというか。例えば今年長兄は、「お祭り」に向けて学年で準備を進めているんだけど、やらされているのではなくて、心が動いたり身体があつと動いたりする人って、いいなあつて感じたりする。そうではない人には、こちらがもう少しかわらないといけないのかなとか、この子は今そう



できない何かがあるのかなとか、まだ安心できないようなものを感じる。いい悪いっていう評価的な捉え方はあまりしていないですね。

宮里 今日二歳児が、これから散歩に出かけようというときに私のそばに来て、「ひとりでいくの」と言ってきた。「ひとりで」という言葉がうれしい言葉で、宣言のように言っていた。大きくなった自分を実感している感じがして、いいなと思った。保育者は「いい子ね」って評価的なことはあまり言わないようにしている。「片づいてきれいになったね」とか「そこ気がついたんだ」とかは言うけど、「いい子にしよう」とは言わないところに、大事な意味があるような気がする。

伊集院 決して「いい子だね」とは言わないですね。

宮里 「いい子だな」とは思っても、その子に「いい子ね」とはあまり言わない。

浜口 その子には言わないけれど、例えば自分のお子さんの良さを認めにくい親御さんなんかには言うかもしれません。

伊集院 そうね。そういうことはあるかもしれない。こういうところがいいところですね、つて、できるだけいいところについて伝えようと心がけていますね。

佐藤 それでも、やはり「いい子」とは言わないかしらね。

宮里 「悪い」が対極にある。

佐藤 などで「子」を付けると変な感じになるのかしら。やっぱり、「いい子」つてしたときには大人の評価が入るのかな。

伊藤 そうなつてほしい、という思いがあるような気がします。

佐藤 今日、ある子がお弁当を派手にひっくり返しちゃったんです。ひっくり返したのが

シヨックだったから、スツとは部屋で座れず
に、遊戯室に一人で行ってしまった。それで
みんな待ってたんです。「きつとがっかりし
ちゃったのね、戻ってきたらどうしようか」
って周りの子どもたちと言ったら、「そつとし
といてあげよう」って。お友達の今困ってい
る状況がわかっていて、そつと見守る感じが
あって。いいな、すごいなあと思いました。

遊戯室は今、お祭りの準備でいろいろなお
店が並んでいるんですが、当の本人は、お菓
子屋さんの所にちよこんと座って、ケーキを
作っていました。そこで一生懸命自分を立て
直そうとしていて……。嫌なことがあると、
みんなから外れていき、気持ちを一緒に立て
直すところに誰かがつき合ってくれないと戻
ってこられる人じゃなかった。そういう、ち
よつと困ったときも、自分を立て直すことが

できるようになってきて、この人いいなって
思っただすよね。

子どもは「つづみ」にならたい

浜口 もともと子どもって、一人ひとりみん
ない子になろうとしていない？

伊集院 してる。すごくしてる。けなげなく
らいしているんですよね。

浜口 わるい子になろうなんて子、いないん
じゃないかしら。結果的にそうなっても。

佐藤 きつとね。うまくいかなくて、いっぱ
い挫折しているんでしょうね。ところで、子
どもたちが思っている「いい子」っていうの
は、どういふのなんでしょう。

浜口 観察で最近会ったY君（三歳児）は、
いざござが起こりやすい子。つい手が出て友
達をたたいたりしてしまう。女の子ばかりと
ままごととして、急に警察官なんかになって、
「よし、迷子を助けに行こう」とかパトロー

ルしたりする。いい子になろうとしているんだなあと思う。でも、周りの子どもと全然かみ合っていないの。面白い、あの子。

伊集院 いろいろ問題を起こす子はいっぱいいるけれど、「困った子だ」「わるい子なんだ」なんていうのは、先生たちは本当に思っていない。今「面白い」って言ったでしょう。ここに面白さっていうか個性があつて、伸ばしてあげたいってみんな思つて、かかわつていないのではないかしら。

宮里 昔の座談会に、大人が思う「いゝ子」とリーダーについて書いてある（本誌16〜17ページに転載）。大人の感じ方と子ども同士の感じ方では違うという指摘がとても面白い。いゝ子という考え方自体を疑いながら語っている感じがとつてもする箇所ですよ。菊池先生は「私の方のは、始めはそれ程いゝ子とは思ひませんでした」と言い切っちゃう。リーダーは「いゝ子」ではないという子どもの

社会を認める教育観が大事なんだと思う。

「大人が見てリーダーと思はれる人必ずしも子供のの中のリーダーにはなれません」というこの一文、どう思いますか？

浜口 小学校とか中学校で、リーダー的な子どもを見つけて、その子を中心にクラスをつくっていくっていう場合もあるようです。

佐藤 私たちも聞かれますよね。「リーダーは誰ですか？」って。とても困るんです。

浜口 そういうことはあまり考えてない？

伊集院 幼稚園の中ではね。この子をリーダーに育てようとか、この子をリーダーに育ててその子を中心にまとめていこうとか、そういう考え方はしないから。

一人ひとりの良さ

宮里 T君っていう、野球やサッカーなどのスポーツは万能だけれど、生き物が苦手な子がいきましたよね。

伊集院 そうなの。園生活最後の上野動物園の遠足のときにね、いつもはスポーツ万能でかっこいいT君が、人目をはばからず鼻にね、ティッシュを詰めて。

宮里 自分のいいところというか得意な面、強い立派な部分も出しているけれど、弱いほうの自分も安心して出していた。弱点のあるリーダーだった気がする。

伊集院 強がつていられなかったんですよ。

宮里 その子そのまま、情けない自分も出していた。いい子だけを求めない保育の中だと、弱い自分を安心して出せるのかなと思った。T君みたいなあり方を先生たちが大事にしていたように思う。

佐藤 そうですねえ。虫のことだったらH君とか、スポーツだったらT君みたいな、それをリーダーっていうのかはわからないけれど、その人がいることでみんなも楽しくなるし、まとまってくるような人はいますよね。総合

的にどうかつていうとわからないけれど……。だから、リーダーっていうのは総合的だなかなか難しい。

宮里 総合的な人はつまらない。特色がないし。ダメだと思う。

伊集院 なんかやつぱりこのことに没頭する、つていう、そういうところが。

浜口 特徴がないつてこと？ 総合的つていうのは。

伊集院 人からどう評価されるかを気にしてバランスをとっているような。昔の座談会でもね、い、子を語るときに、「遊びに没入して居ります」つて。それをいいつて、話していただきましたね。

大人の評価との関係

宮里 評価の視点つて大事よね。何をいいと思っているかによつて、子どもの動きが変わつてしまうように思う。

佐藤 子どもたちはそういうのをお互いよく

見えていますね。弱い部分があつたりしても、

「この人のこういうところは、自分にはない。

すごいなあ」って認めてしまうところが、子

ども同士の関係にはある。大人は、できてい

ないことをとやかく言うことが多いけれど。

子どもって、できないことがいっぱいあるか

ら、できていることに対してすごいなって素

直に思うのかな。

伊集院 そういうところ、あるかもね。

浜口 それって、あまり先生方が評価しない

からだと思う。

佐藤 あー。そういう生活だから？

浜口 先生の評価があると、子どもが先生の

目で見てしまうときがあるじゃない。あの子

はだめだ、みたいなの。だから、子どもって、

子どもに任せておくとかなりそういう力を発

揮するけれど、「いい悪い」の評価が先んじる

と難しいのかなって。

伊集院 まあ、どの子にも自分を發揮してほ

しいと思つて保育していますからね。

伊藤 運動会のとくに、「明日、玉入れやるよ」

つて言つたら、「みんなで頑張ろうつていう気

持ちでやるといいよね」ということを言った

子がいたんです。その子は隣のクラスの子と

遊ぶことも多かつたので、この子も「このク

ラスで、みんなでやりたい」つて思つて言葉

にするんだなあ、そういう姿がいいなあつて

思つたことがあります。

浜口 助けられるのね、先生が。

佐藤 でも、そこはちよつと微妙。なんてい

うのかなあ。例えば片づけも、一生懸命やっ

てくれて「その人の気持ちがいい」つて

いうのもあるけれど、実際「先生が助かる」

つていうのもあるじゃないですか。そういう

場合は、やっぱり評価的になりますよね。

浜口 そういう「助かる」もありますか。

伊集院 私もさつき話題に出したけれど、評

価値的ではなくて、けなげな姿に、「は、こう
いうところがあるんだ」っていうのだったの
ね、Mちゃんは。この人、本当に目立たない
けれど、こういうふうにやってるんだなあっ
て思ってた。

佐藤 やってますよね。先生が片づけてほし
いと思ってるのを見て、だから動いている
というのではないものね、Mちゃんは。

伊集院 ではないのよ。

佐藤 でもその微妙な違いってどういうこと
なんでしょうね。同じ「片づけてる」って現
象だけではそういうふうには言えないですよ
ね。Mちゃんのそこだけ見ているわけではな
くて、彼女の生き生きと遊んでいる姿とか、
すごく意欲的にいろんなことをやる人だから、
という全体性を見ていると思うんですよね。
浜口 やっぱり効果をねらってやる子もいる
わけ？ 先生にほめてもらいたいかか。

伊集院 います。

佐藤 います。片づけになると張り切る子も。
伊集院 そう、それも悪くはないけれど。

宮里 片づけはさっさとやるのがいいことだ
と思ってる、そういう遊び方しかなかった子
が、「もう片づけなんか嫌だ、もっと遊びたい
んだ」っていうふうになったら、「ああよかつ
た」って思う。片づけになると張り切ってく
れる子に「ありがとう」って言いつつ、片づ
けだけが生きがいの人生じゃまずいんじゃない
かと思ったりもする。だからといって、そ
の子に対して、片づけさえほめてあげないと
したら……。

佐藤 もう何もなくなっちゃう。

宮里 もう何もなくなっちゃうから、私は「本
当に助かる。ありがとう」って言う。

伊集院・佐藤・伊藤・浜口 言う。そうよね。

(二〇一六年十月三十一日)